Japan.
Endless
Discovery.

第１５回ＩＴＳシンポジウム２０１７　企画セッション２
「九州の観光とＩＴＳ」資料

九州の観光推進政策、移動支援の施策について

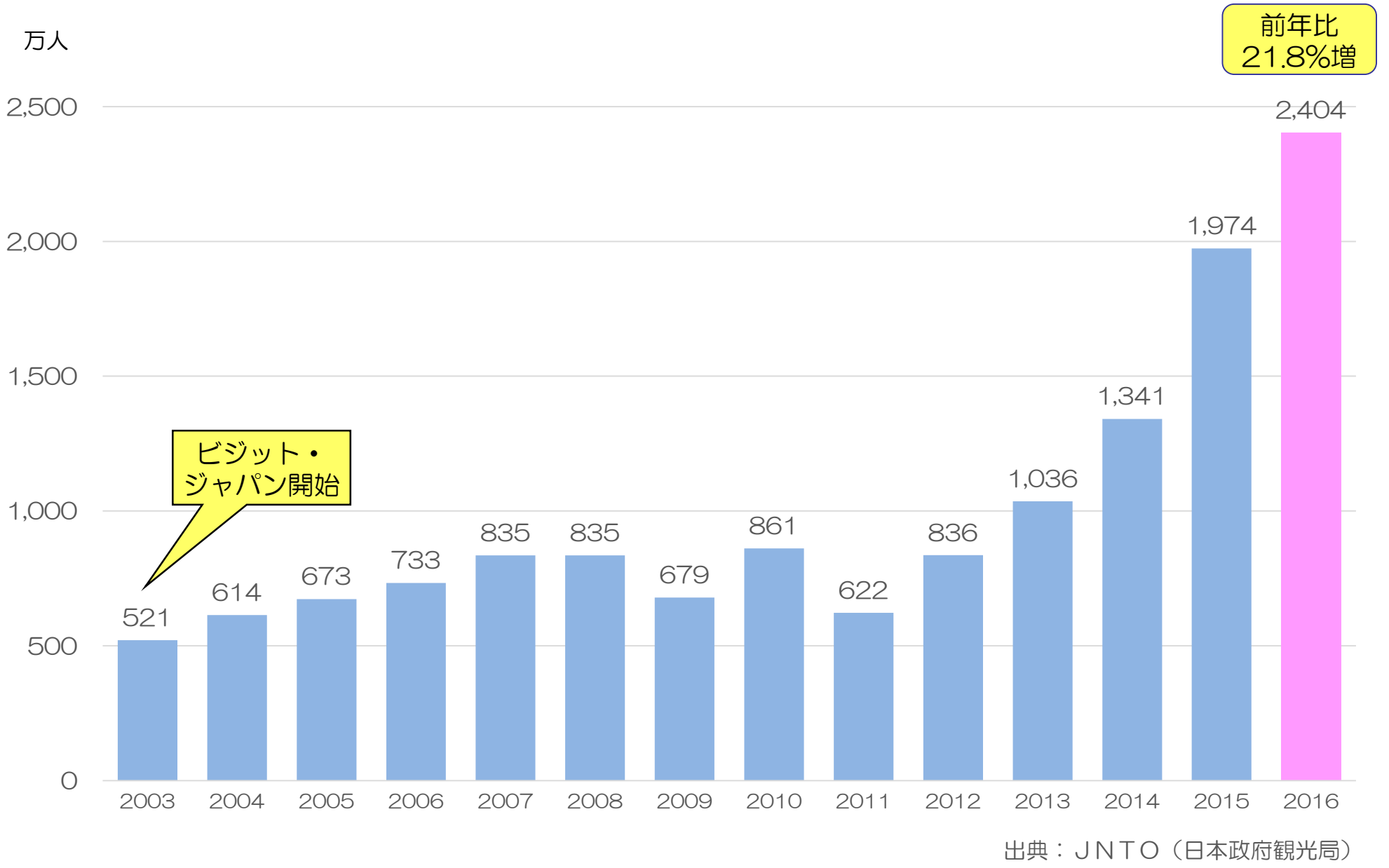
平成 29 年 12 月

九州運輸局　観光部長
阿部　雄介

運輸と観光で九州の元気を創ります

九 州 運 輸 局

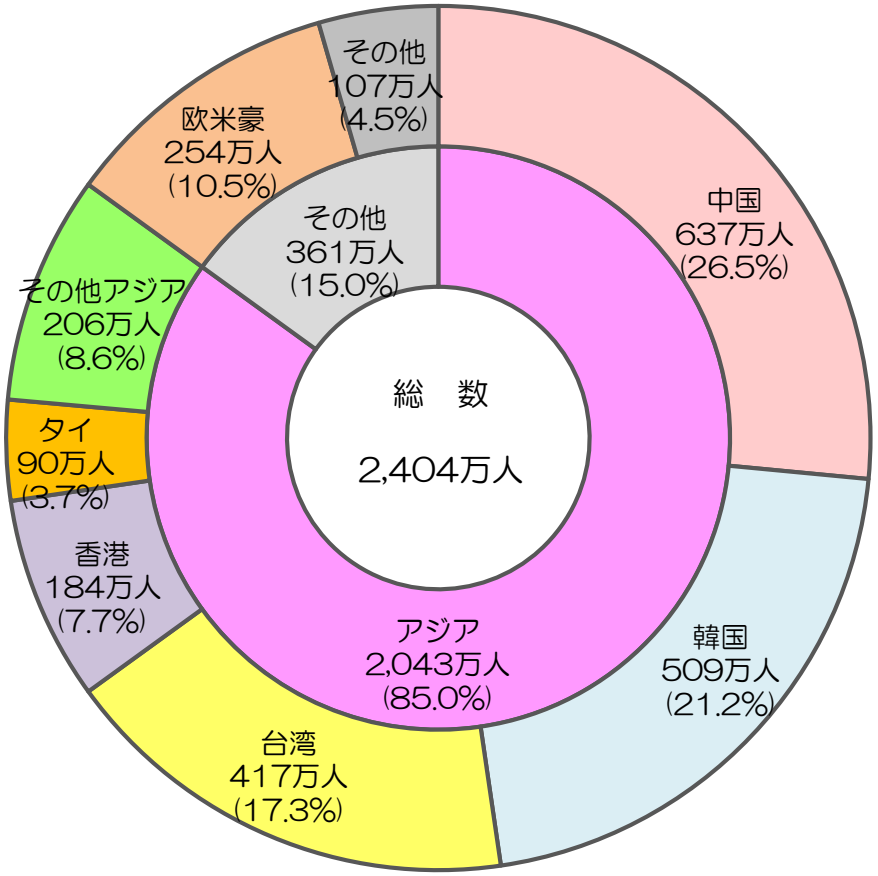
（1）訪日外国人旅行者数の推移



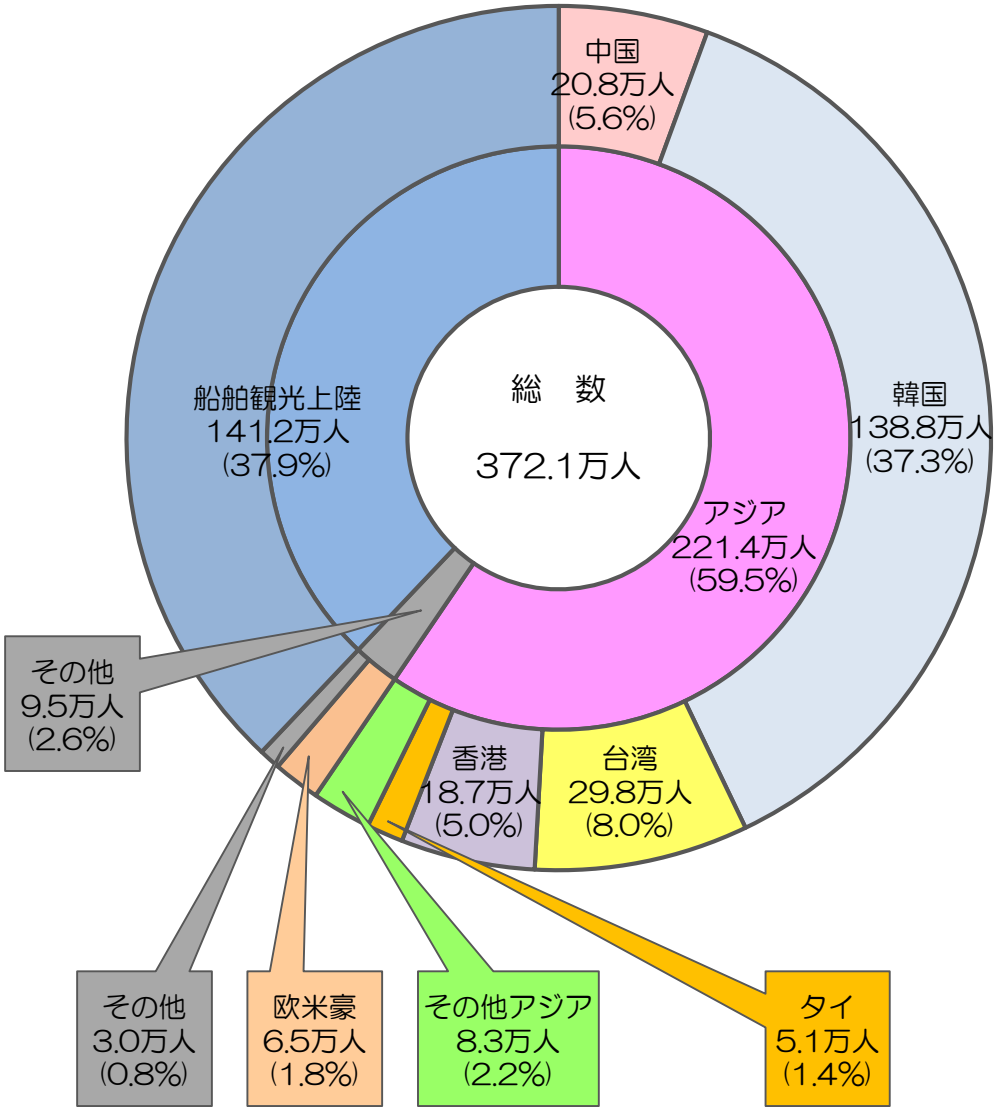
出典：ＪＮＴＯ（日本政府観光局）

(2)訪日外国人旅行者(入国者)数(2016)

訪日外国人旅行者数（全国）

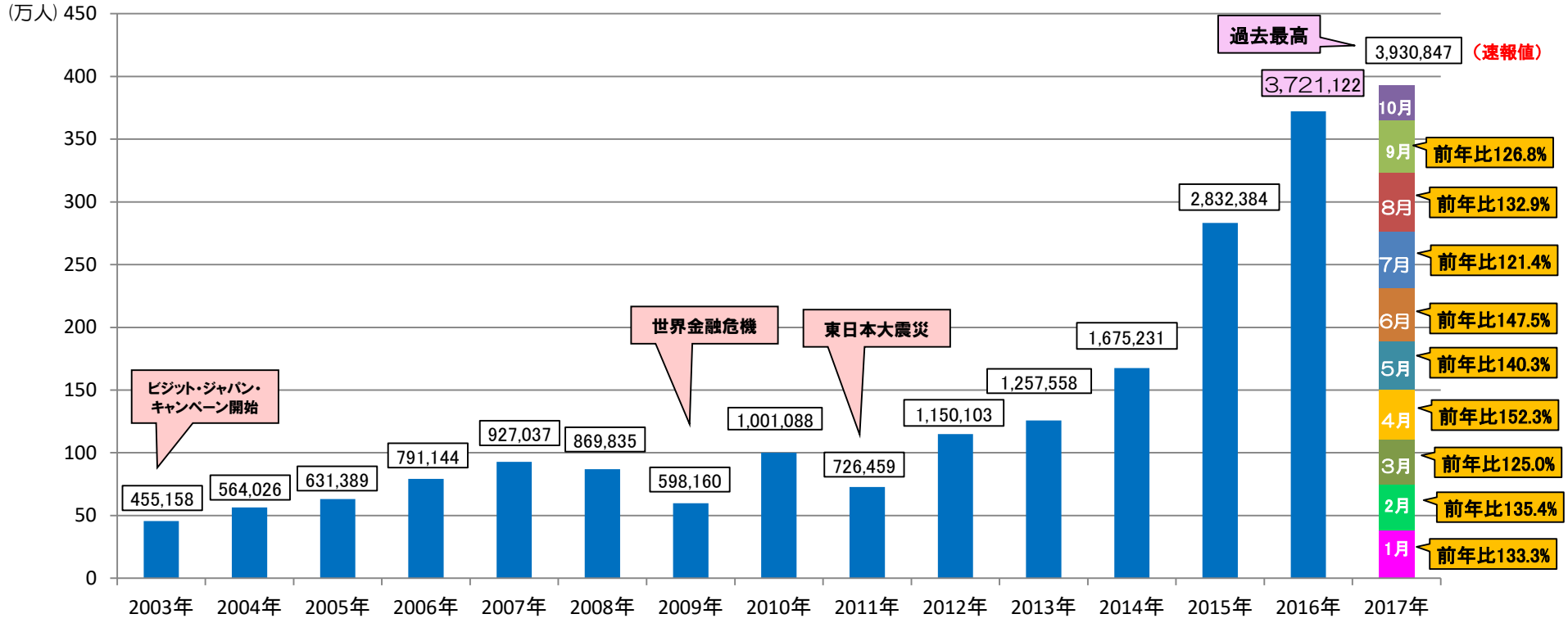


訪日外国人入国者数（九州）



※　（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア
※　数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。
※　欧米豪：英国、フランス、ドイツ、イタリア、米国、豪州
※　出典：全国：日本政府観光局（JNTO）
　　九州：法務省出入国管理統計

(3)九州の外国人入国者数の推移(2017年10月速報値含む)



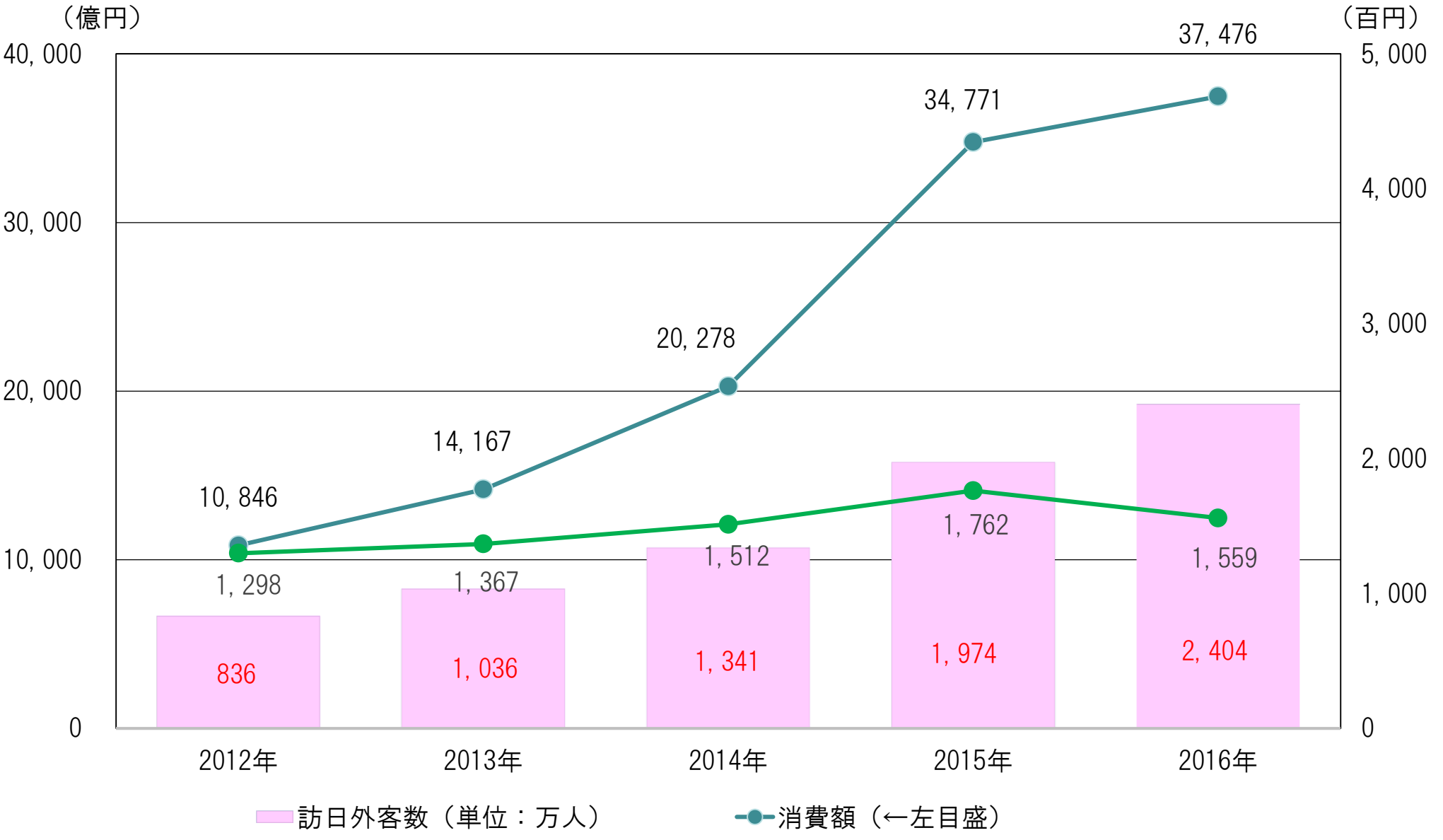
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
2015	161,585	154,566	166,791	183,700	167,532	136,909	168,346	181,886	153,542	184,896	189,486	195,853	2,045,117	※1
	871	13,391	6,346	34,683	43,403	85,052	126,482	133,448	112,289	104,792	70,797	55,713	787,267	※2
	162,456	167,957	173,137	218,383	210,935	221,961	294,828	315,334	265,831	289,688	260,283	251,566	2,832,384	※3
2016	218,270	214,859	208,401	169,743	126,654	151,659	178,472	188,711	198,687	208,692	211,139	234,189	2,309,476	※1
	65,910	59,117	79,729	92,356	143,775	137,410	188,383	168,751	128,314	125,267	118,866	103,768	1,411,646	※2
	284,180	273,976	288,130	262,099	270,429	289,069	366,855	357,462	327,001	333,959	330,005	337,957	3,721,122	※3
2017	274,060	263,341	255,279	279,724	262,195	260,257	272,741	268,954	254,716	*281,024*			*2,672,291*	※1
	104,772	107,705	105,009	119,352	117,197	166,046	172,536	206,018	159,921				1,258,556	※2
	378,832	371,046	360,288	399,076	379,392	426,303	445,277	474,972	414,637	*281,024*			*3,930,847*	※3
対前年比	125.6	122.6	122.5	164.8	207.0	171.6	152.8	142.5	128.2	*134.7*				※4
	133.3	135.4	125.0	152.3	140.3	147.5	121.4	132.9	126.8				134.2	※5

・※1　外国人入国者数、※2　船舶観光上陸数、※3　船舶観光上陸を含む外国人入国者数、※4　外国人入国者数の比較、※5　船舶観光上陸を含む入国者数の比較

・斜体文字及び月報は速報値であり、年報は確定値であることから月ごとの集計と年間の合計は一致しない年もある。

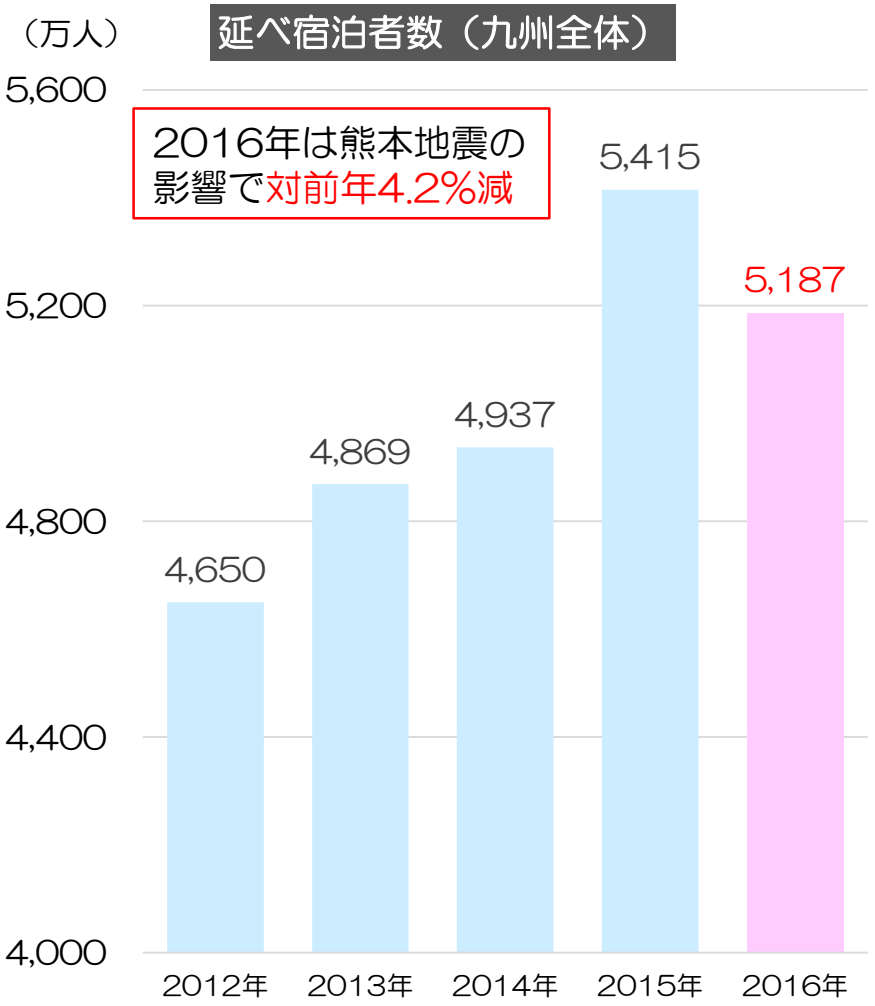
〈出典： 法務省出入国管理統計〉

（4）訪日外国人旅行消費額の推移



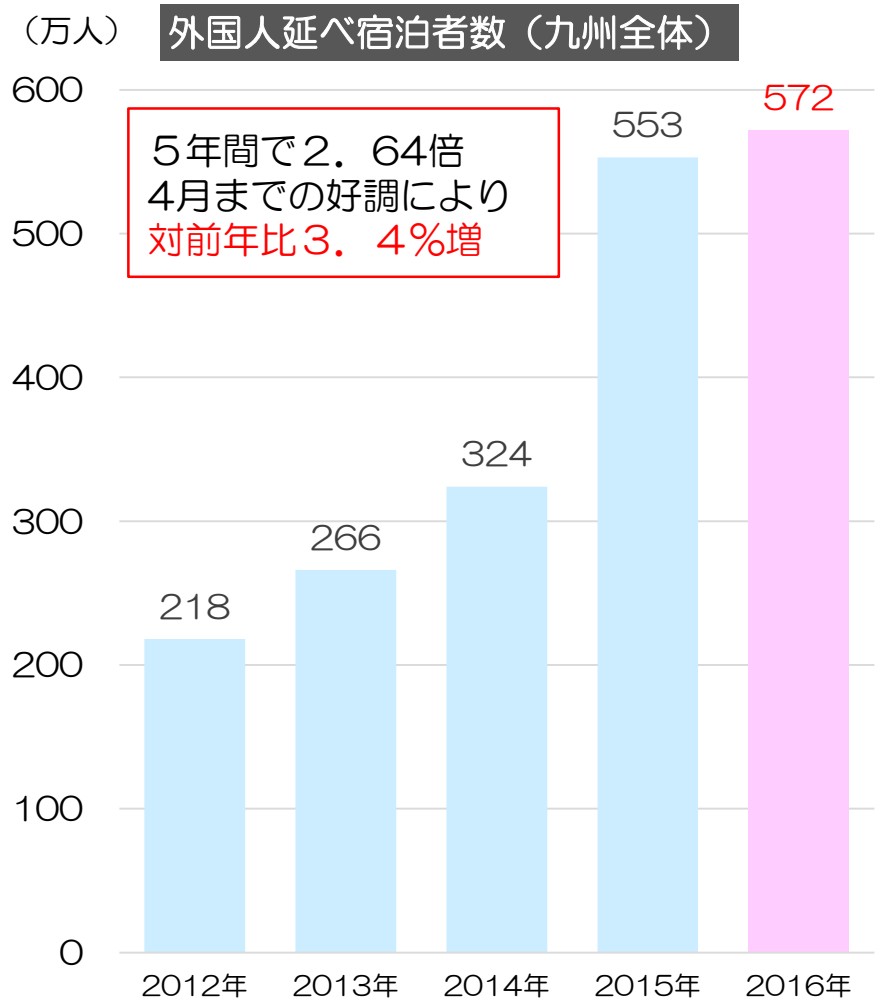
出典：日本政府観光局（ＪＮＴＯ）
観光庁「訪日外国人消費動向調査」

(5)宿泊者数の推移等



2016年の全国の延べ宿泊者数に占める割合

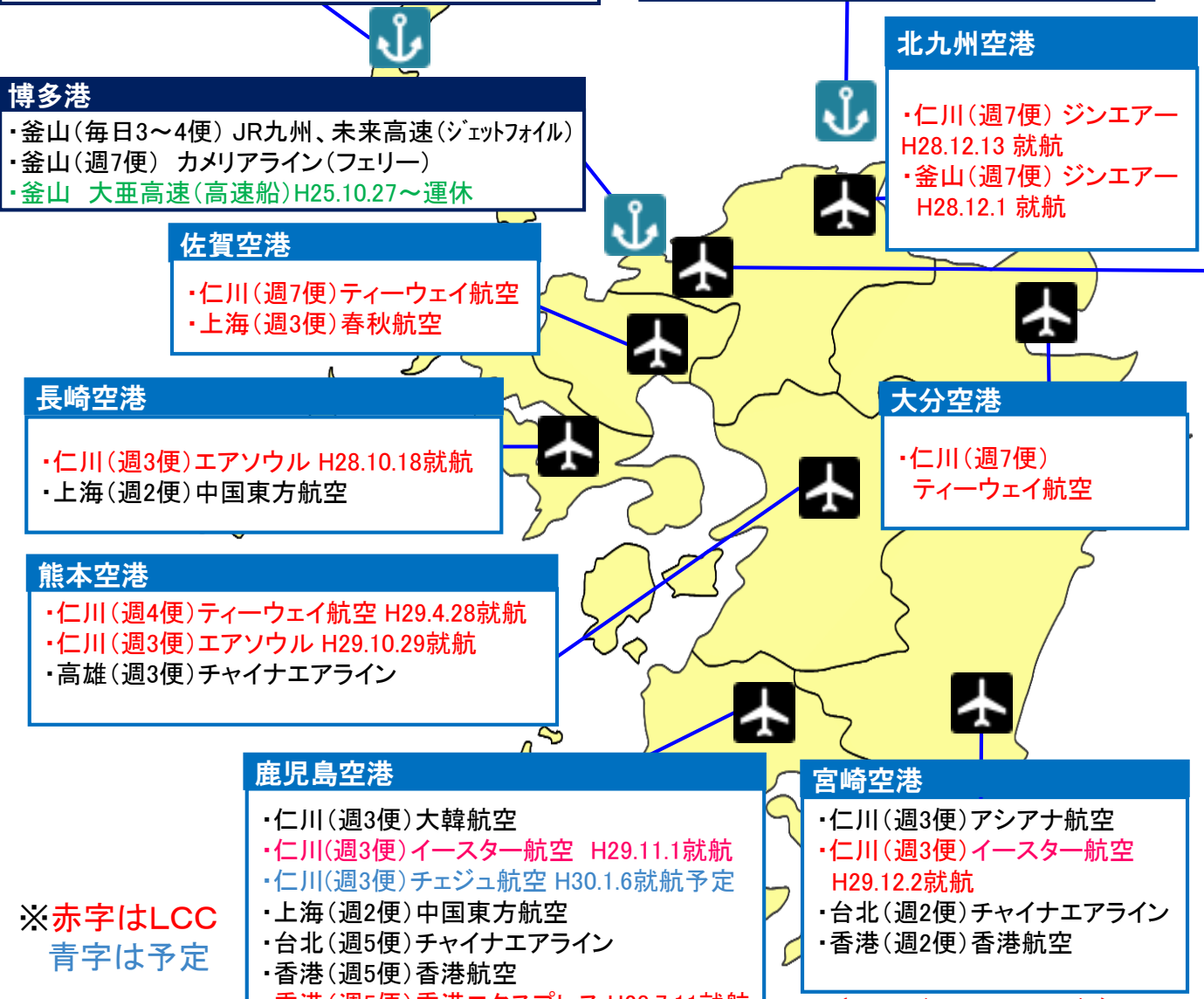
⇒ 10.5%



2016年の全国の延べ宿泊者数に占める割合

⇒ 8.2%

（6）九州への国際航空路線・旅客船航路 就航状況



厳原、比田勝港（対馬）

・釜山（毎日2～4便）JR九州、未来高速（ｼﾞｪｯﾄﾌｫｲﾙ）
・釜山（週7便）大亜高速（高速船）

博多港

・釜山（毎日3～4便）JR九州、未来高速（ｼﾞｪｯﾄﾌｫｲﾙ）
・釜山（週7便） カメリアライン（フェリー）
・釜山 大亜高速（高速船）H25.10.27～運休

佐賀空港

・仁川（週7便）ティーウェイ航空
・上海（週3便）春秋航空

長崎空港

・仁川（週3便）エアソウル H28.10.18就航
・上海（週2便）中国東方航空

熊本空港

・仁川（週4便）ティーウェイ航空 H29.4.28就航
・仁川（週3便）エアソウル H29.10.29就航
・高雄（週3便）チャイナエアライン

鹿児島空港

・仁川（週3便）大韓航空
・仁川（週3便）イースター航空 H29.11.1就航
・仁川（週3便）チェジュ航空 H30.1.6就航予定
・上海（週2便）中国東方航空
・台北（週5便）チャイナエアライン
・香港（週5便）香港航空
・香港（週5便）香港エクスプレス H28.7.11就航

下関港（山口県）

・釜山（週7便）関釜フェリー、釜関フェリー
・青島 オリエントフェリー H27.12.27～運休

北九州空港

・仁川（週7便） ジンエアー H28.12.13 就航
・釜山（週7便） ジンエアー H28.12.1 就航

大分空港

・仁川（週7便） ティーウェイ航空

宮崎空港

・仁川（週3便）アシアナ航空
・仁川（週3便）イースター航空 H29.12.2就航
・台北（週2便）チャイナエアライン
・香港（週2便）香港航空

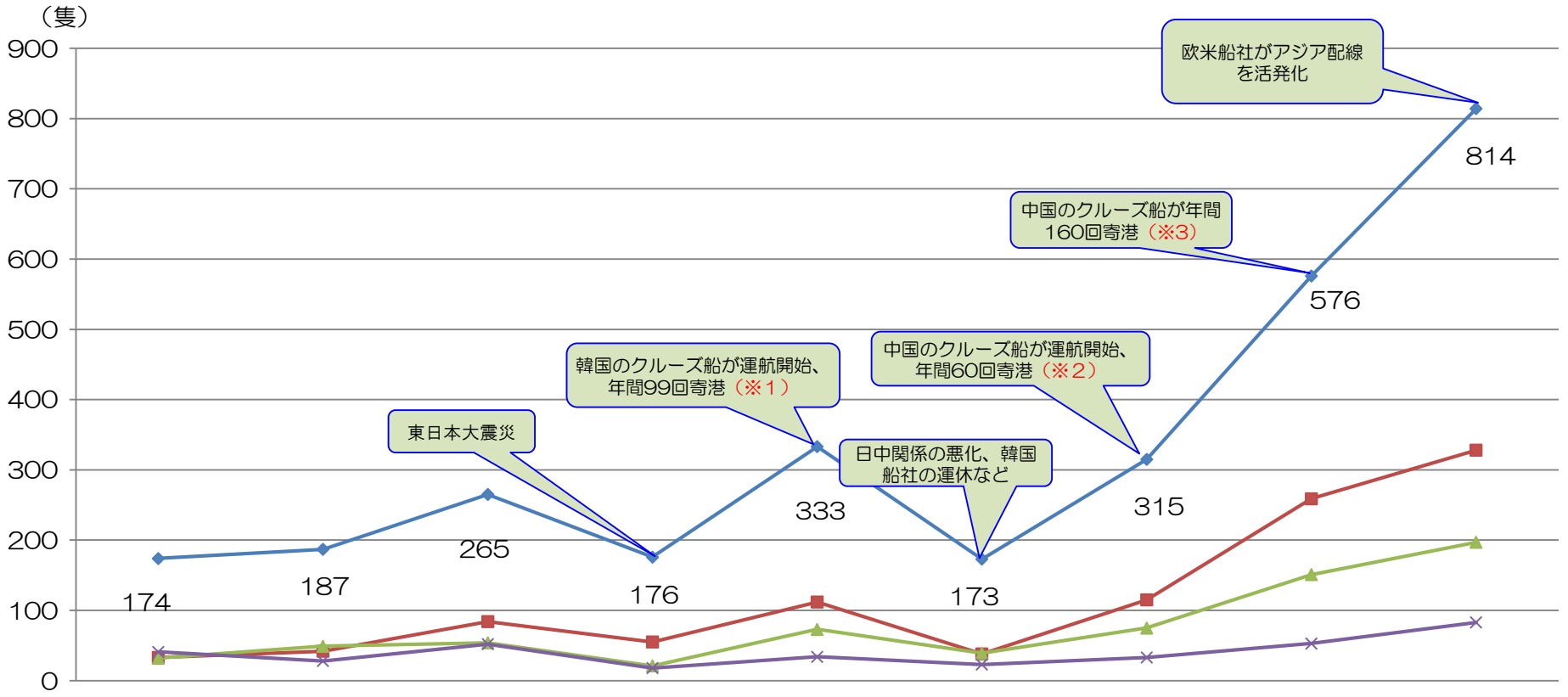
福岡空港

・仁川（週49便）大韓航空、アシアナ航空
・仁川（週14便） ティーウェイ航空 H23.12.20就航
・仁川（週28便）チェジュ航空 H24.3.30就航
・仁川（週21便）ジンエアー H26.12.1就航
・仁川（週14便）イースター航空 H28.7.20就航
・釜山（週14便）大韓航空
・釜山（週27便）エアプサン H22.3.29就航
・釜山（週14便）チェジュ航空 H27.4.3就航
・大邱（週7便） エアプサン H28.9.1就航
・大邱（週7便） ティーウェイ航空 H28.9.1就航
・北京（週14便【大連経由・青島経由】）
中国国際航空、中国東方航空
・上海（週28便）中国国際航空、中国東方航空、
・大連（週7便）中国国際航空
・青島（週7便）中国東方航空
・武漢（週7便【上海経由】）中国東方航空
・マカオ（週3便）マカオ航空 H28.3.25就航
・台北（週26便）エバー航空、チャイナエアライン
・台北（週7便）タイガーエア H28.1.28就航
・高雄（週5便）エバー航空
・香港（週7便）香港ドラゴン航空
・香港（週18便）香港エクスプレス H26.4.10就航
・シンガポール（週7便）シンガポール航空
・バンコク（週7便）タイ国際航空
・マニラ（週6便） フィリピン航空
・マニラ（週3便）セブパシフィック航空 H27.12.17就航
・ハノイ（週4便） ベトナム航空
・ホーチミン（週3便） ベトナム航空
・グアム（週7便） ユナイテッド航空
・ホ ノルル（週5便）デルタ航空
・ヘルシンキ（週0便）フィンランド航空 H28.5.8就航
夏ダイヤのみ運航

※赤字はLCC
青字は予定

（H29年１２月現在）

（7）九州へのクルーズ船寄港回数の推移



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
全　体	174	187	265	176	333	173	315	576	814
博多港	33	42	84	55	112	38	115	259	328
長崎港	32	49	54	21	73	39	75	151	197
鹿児島港	41	28	52	18	34	23	33	53	83

※1　ハーモニー・クルーズ社「クラブ・ハーモニー」（25，558総トン、旅客定員1，000名）：2012年2月17日（長崎港）～2013年1月30日（別府港）
2012年99回、2013年16回、合計115回寄港

※2　HNAクルーズ社「HENNA」（47，678総トン、旅客定員1，965名）：2014年4月22日九州初寄港（博多港）
渤海クルーズ社「中華泰山：チャイニーズ・タイシャン」（24，427総トン、旅客定員927人）：2014年11月29日九州初寄港（博多港）

※3　スカイシー・クルーズ社「スカイシー・ゴールデン・エラ」（72，458総トン、旅客定員1，814人）：2015年5月17日九州初寄港（博多港）

（8）外国クルーズ船増加に伴う諸課題と対応策

<課題1>寄港増・大型化に対する受入環境の制約

●貸切バス駐車スペース不足、道路渋滞　等

<対応策>
貸切バスによる道路交通渋滞解消

〇駐車場の増設
〇商業施設へのバス立ち寄り場所や時間の分散化

<課題2>旅行商品の競争激化・低価格化

●優良観光施設の通過
●特定免税店への集中・キックバック　等

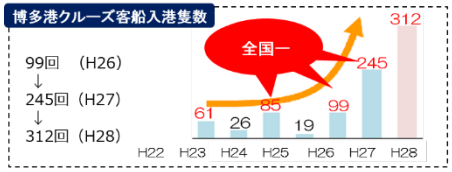
<対応策>
高品質クルーズ商品の造成促進

〇多様な寄港地観光素材の発掘
〇上海主要旅行社への商品造成の働きかけ

貸切バス道路渋滞解消に向けた『ショットガン方式』による実証事業を実施 ➡ **本格運用中**

福岡市中心部におけるクルーズ貸切バス路上混雑解消に向けた「ショットガン」方式による実証事業

博多港クルーズ客船入港隻数



その結果・・・・

福岡市内の貸切バス車両が増加

貸切バスの駐停車スペースの不足等の理由から**乗降場所での長時間駐車や路上駐車による交通渋滞等が発生**

受入環境整備緊急対策事業（実証事業分　平成27年度補正予算）

ベイサイドプレイス周辺における貸切バスによる路上混雑を緩和するため、遠隔地にバスの待機場を設ける「ショットガン方式（※）」の実証実験を実施。（※）待機場から目的地の乗降場へ無線等を活用し貸切バスを誘導する方式

ベイサイドプレイス
福岡市の臨港地区（築港地区）に在する、飲食店・雑貨店・免税店等からなる複合商業施設

事業概要　（平成２８年１２月～平成２９年２月実施）
（１）ベイサイドプレイス周辺（築港地区）における路上混雑状況の調査
（２）博多港クルーズセンターのバス待機場と、ベイサイドプレイス付近に設けるバス乗降場間とのショットガン方式による実証実験を実施
（３）築港地区以外の福岡市内における路上混雑地区の把握
（４）関係自治体（県、市）、県警等関係者との意見交換
（５）実証事業の効果測定

※本調査事業の事業報告書は当局ホームページにて閲覧可能です。
国土交通省九州運輸局 → 分野別情報の「観光」 → 調査事業

長崎港におけるクルーズ貸切バス道路渋滞解消に向けた「ショットガン」方式による実証事業

背　景：平成27年の長崎港へのクルーズ船の寄港数は、128回と過去最高を記録し、さらに平成２８年は190回の寄港が見込まれている。
このうち約8割が中国からのクルーズであり、客船の大型化も進んでいる。

問題点：貸切バスが増加し、市内中心部の駐停車スペースが不足することにより乗降場所での長時間駐車や路上駐車による交通渋滞等が発生し、市民生活にも支障を来している。

解決策：待機場から目的地の乗降場へ無線等を活用し貸切バスを誘導するショットガン方式による実証事業を実施し、効果測定を行う。

受入環境整備緊急対策事業（実証事業分）

長崎港クルーズ客船入港隻数

期間（暦年）	寄港数（隻）
H24	72
H25	35
H26	70
H27	128
H28	**190**

その結果・・・・

事業概要　（平成２８年１０月～１１月実施）
（１）浜の町商店街エリア、旭大橋エリア（LAOX、ドラッグ・オン）における路上混雑状況の調査
（２）長崎駅付近等の大型バス待機場と、（１）のエリア付近のバス乗降場間とのショットガン方式による実証実験を実施
（３）関係自治体（県、市）、県警等関係者との意見交換
（４）実証事業の効果測定

※本調査事業の事業報告書は当局ホームページにて閲覧可能です。
国土交通省九州運輸局 → 分野別情報の「観光」 → 調査事業

（9）多言語音声翻訳システム（アプリ「VoiceTra」）

○ 情報通信研究機構（NICT）では、多言語音声翻訳システムの社会実装を促進させるために、スマートフォンアプリ「VoiceTra」を開発。最新バージョンを2015年10月に公開。

○ 最新バージョンは、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、スペイン、フランス語の旅行会話の翻訳精度を英・中・韓と同等レベルに向上するとともに、英・中・韓については駅名などの固有名詞を充実するなど、機能を拡張。

○2020年までに、翻訳精度の向上や対応言語の拡大等を実現し、様々な事業者から多言語音声翻訳システムを活用した翻訳・通訳サービスが提供され、世の中に広く普及することを目標とし、多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証に取り組む。

機能

○話した音声を認識して、内容を音声翻訳してくれる自動翻訳アプリ
○31言語間の翻訳、うち21言語は音声入力、16言語は音声出力が可能

＜画面イメージ＞

＜言語選択画面＞

QRコード

VoiceTraサポートページ：http://voicetra.nict.go.jp/

言語	入力		出力	
	音声	テキスト	音声	テキスト
日本語	✔	✔	✔	✔
中国語	✔	✔	✔	✔
韓国語	✔	✔	✔	✔
ウルドゥ語（パキスタン）		✔		✔
シンハラ語（スリランカ）		✔		✔
トルコ語	✔	✔	✔	✔
ネパール語	✔	✔		✔
ヒンディ語	✔	✔	✔	✔
モンゴル語		✔	✔	✔
インドネシア語	✔	✔	✔	✔
タイ語	✔	✔	✔	✔
フィリピン語		✔		✔
ベトナム語	✔	✔	✔	✔
マレー語	✔	✔	✔	✔
クメール語（カンボジア）		✔		✔
ミャンマー語	✔	✔	✔	✔
ラーオ語（ラオス）		✔		✔
アラビア語		✔		✔
英語	✔	✔	✔	✔
イタリア語		✔		✔
オランダ語	✔	✔		✔
スペイン語	✔	✔		✔
デンマーク語		✔		✔
ドイツ語	✔	✔		✔
ハンガリー語	✔	✔	✔	✔
フランス語	✔	✔		✔
ポーランド語	✔	✔	✔	✔
ポルトガル語	✔	✔	✔	✔
ポルトガル語（ブラジル）	✔	✔	✔	✔
ロシア語	✔	✔		✔

（10）外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」

日本国内における緊急地震速報及び津波警報、気象特別警報、噴火速報を5言語で通知できるアプリ。この他、周囲の状況に照らした避難行動を示した避難フローチャートや周りの人から情報を取るためのコミュニケーションカード、災害時に必要な情報を収集できるリンク集等を提供。

地震、津波、気象特別警報、噴火速報を自動で知らせてくれ、詳細やとるべき行動を確認できます

＜緊急地震速報＞

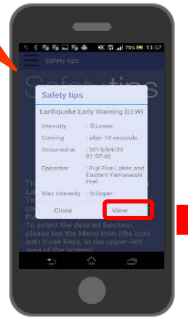
＜津波警報＞

＜気象特別警報＞

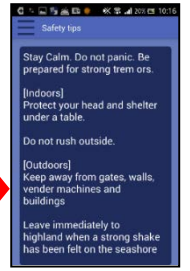
＜噴火速報＞

イラストは気象庁パンフレットより

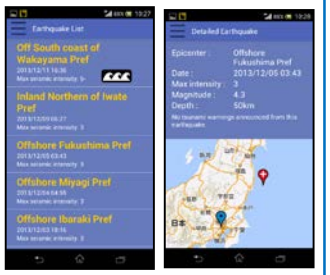
プッシュ通知



とるべき行動



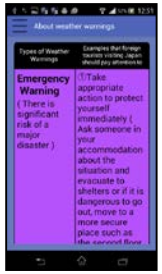
地震（震度３以上）・津波情報も見ることができます



プッシュ通知

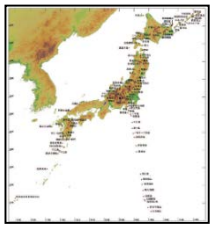
気象情報一覧

とるべき行動



気象庁が発表する噴火警報も確認できます

全国110箇所の活火山を対象

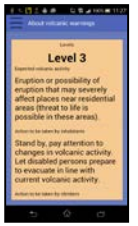


イラストは気象庁パンフレットより

噴火警報の一覧

位置図などの詳細

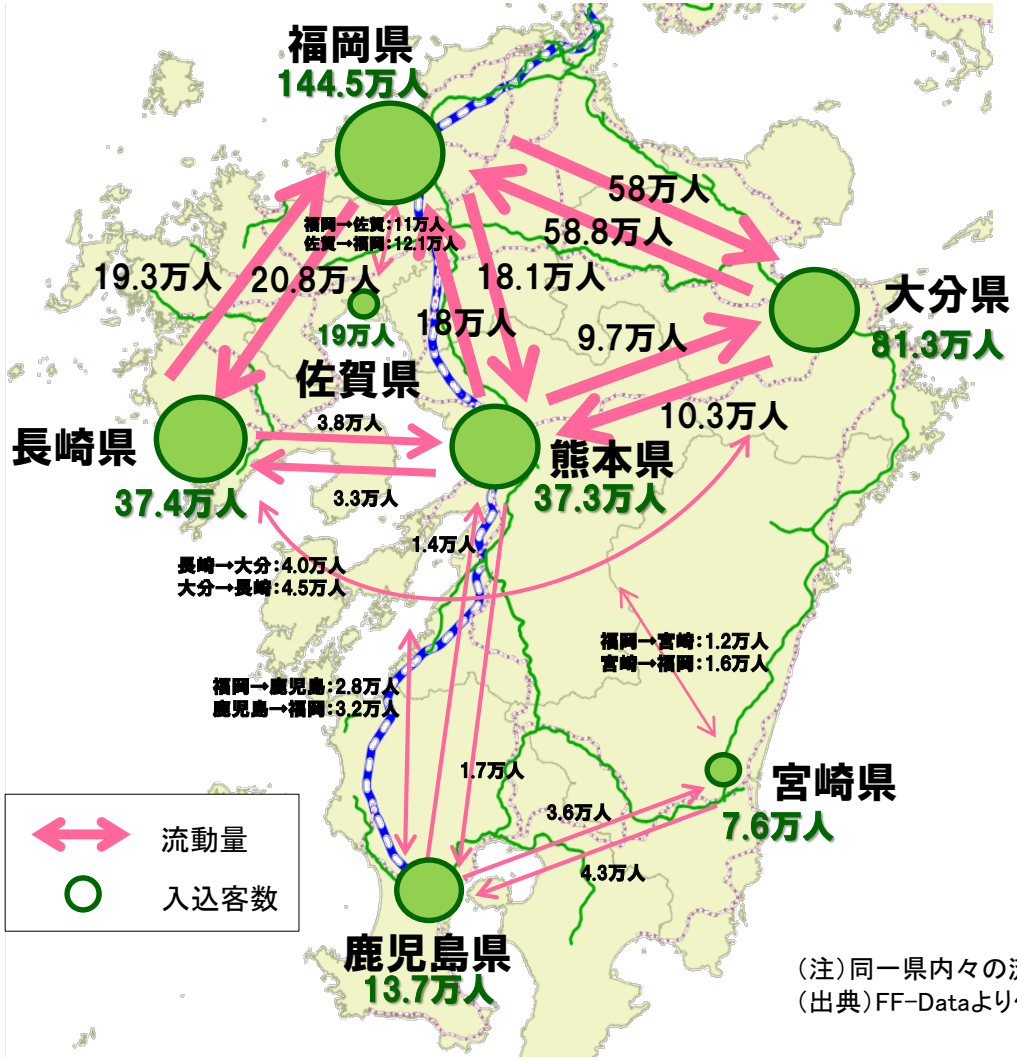
火山活動の状況

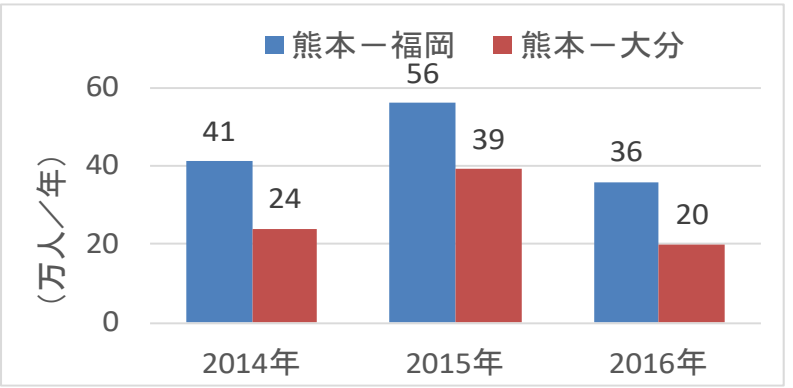


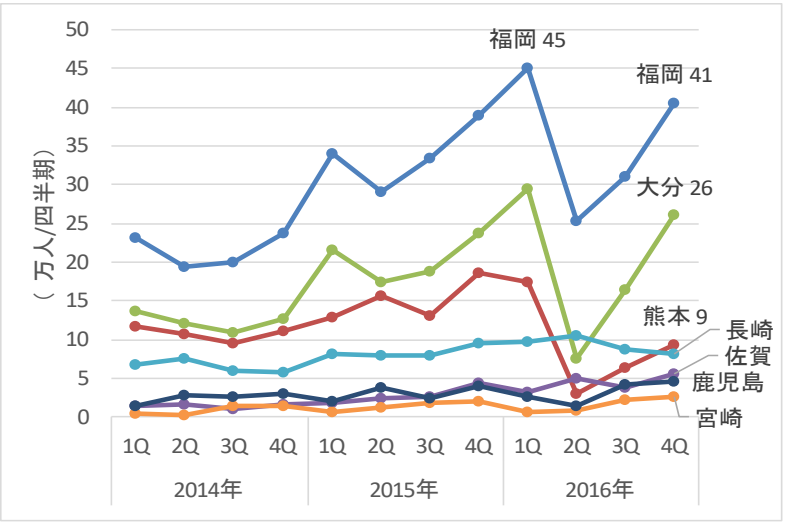
（11）九州内の訪日外国人の流動状況

- 九州では福岡県を中心に北部の県間での流動が多いことがわかる。
- 熊本－福岡、大分間では、熊本地震の影響もあり、2016年の流動量が2015年よりも減少している。

図　九州地方の入込客数と地域間流動量（2016年）







※四半期と年間の拡大係数は異なるため、四半期の合計は年間値と一致しない。
※熊本地震発生：2016年4月（2Q）

（注）同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。
（出典）FF-Dataより作成

（12）ICTを活用した訪日外国人観光動態調査について

○ＩＣＴを活用した観光ビッグデータを分析することで、従前の手法ではわからなかった訪日外国人旅行者の旅行動態の実態および潜在的なニーズなどの把握が期待できる。
○各地において観光地域づくりに取り組む組織等が、科学的分析に基づき観光施策を効果的に推進できるよう、ＩＣＴを活用した訪日外国人旅行者の観光動態調査についての手引きを作成。

はじめに
第１章　ＩＣＴを活用した各種分析
第２章　ＩＣＴを活用した分析手法
第３章　ＩＣＴを活用した高度な分析手法
第４章　観光動態調査結果の活用
おわりに

DMOネット及び観光庁ＨＰにて公開

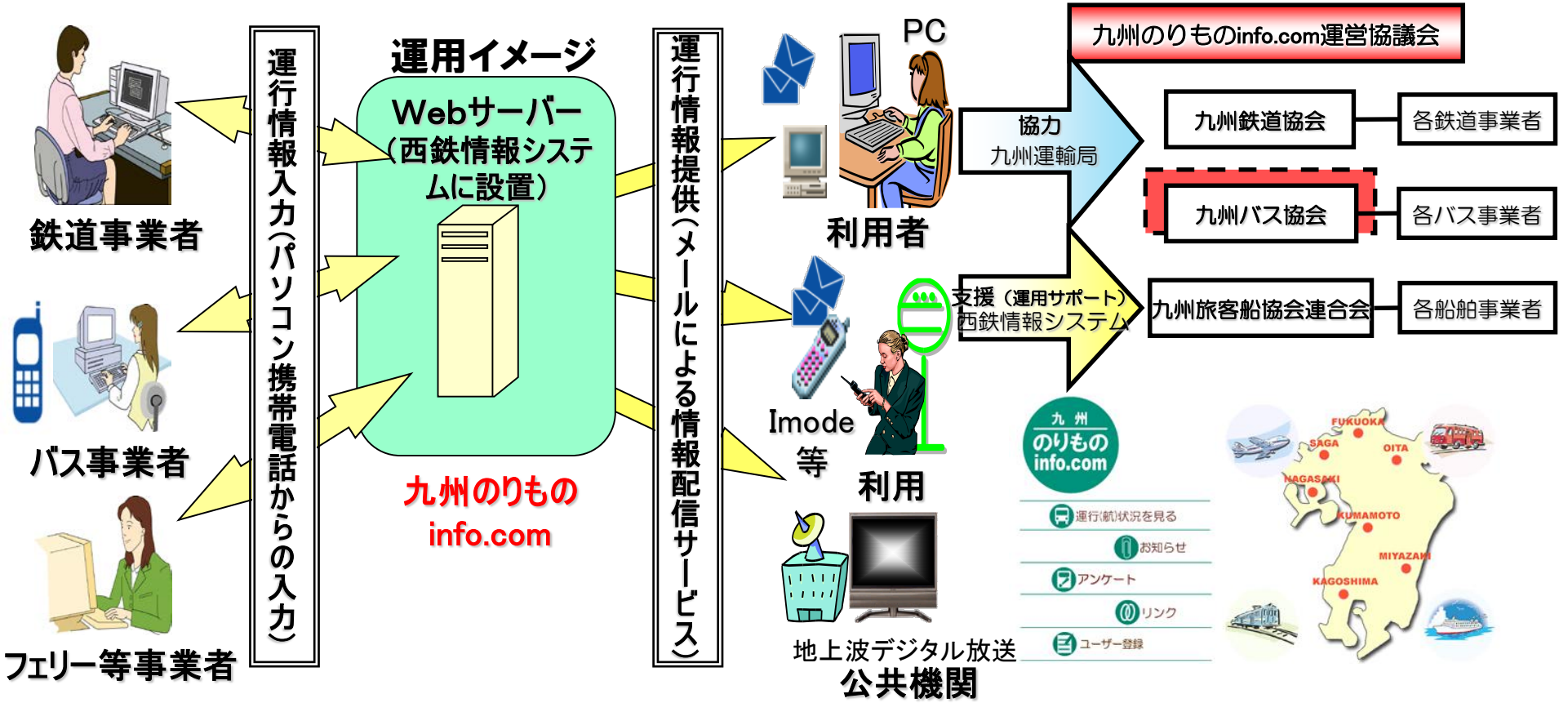
掲載例）
ローミングデータ、ＧＰＳデータ、ＳＮＳデータの特徴を整理

	【基地局情報の活用】 ①ローミングデータ	【GPS機能アプリを活用】 ②GPSデータ	【SNS等を活用】 ③SNSデータ
概要	訪日外国人旅行者が、日本国内で自国の携帯電話を使用することで蓄積される日本の携帯電話の基地局の情報（ローミングデータ）を統計処理したデータ	訪日外国人旅行者が保有するスマートフォンやタブレットにインストールされたナビゲーションアプリケーションのGPS機能等を活用し、一定時間ごとに記録、蓄積した測位情報（GPSデータ）	TwitterやWeiboなどのSNSやブログ、フォーラム等で発信された日本旅行に関するデータから、他人の発言に対する反応や旅行に関する一般的な質問等を機械的にクレンジング処理したデータ
活用先適用範囲	～マクロからミクロまでの分析～ 全国規模	～ミクロでの移動や集積～ 特定地域・注目地域	～訪問目的や評価～ 特定地域・注目地域
特徴	○出入国管理統計（法務省）を基に拡大推計しているため、統計情報として分析可能 ○訪日外国人旅行者が少ない地方部でもデータの取得可能性大 ○メッシュ（10km、1km等）、市区町村、都道府県単位を基準に、任意のエリアで集計・表示が可能	○詳細なスポットと旅行者の移動状況が把握可能 ○アンケートの実施により、旅行者の複数の属性を把握可能 ○測位情報を記録する間隔により、滞在と通過の区別や滞在時間の把握等も可能 ○プロモーションへの活用も可能	○訪日外国人旅行者が発言する注目観光地などが把握可能 ○観光地に対する評価等が把握可能
留意事項	○把握できる属性は、携帯電話契約をしている国・地域に限定 ○プライバシー保護の観点から、一定の人数以下の場合は非表示 ○ビジネス目的の訪日外国人旅行者を分離することができない	○協力許諾を得たデータのみを利用 ○サンプルサイズが小さく、国・地域等の偏りがあるため、統計処理には不向き ○事例分析への活用が適す ○ニーズに適した契約を選ぶことが重要	○個人を識別できる情報を含まない ○固有名詞や写真は非表示 ○サンプルサイズが小さく、利用者に偏りがあるため、統計処理には不向き ○事例分析への活用が適す ○ニーズに適した契約を選ぶことが重要

掲載例）
ローミングデータ、ＧＰＳデータ、ＳＮＳデータの特性を踏まえた分析を通じ、各データの活用方法を例示

（13）交通の情報化の推進

災害時等公共交通機関別運行（航）情報システム（九州のりものinfo.com）

本システムは、平成14年度国土交通省総合政策局の「ITを活用した災害時等における公共交通機関別運行（航）情報提供の高度化実証実験」で構築したシステム。平成15年4月より運用開始。 平成17年7月に九州鉄道協会、九州バス協会、九州旅客船協会連合会の3者で「九州のりものinfo.com運営協議会」を設立し、共同で運営を行っている（事務局　九州バス協会）。 九州運輸局は協力。システムの保持運営は、サーバ管理も含め西鉄情報システム㈱に委託。

今まで、公共交通機関の運行（航）情報は報道機関・自社ホームページ・電話応対などで事業者毎に様々な手段で情報配信を行っていたが、「のりものinfo.com」では、事業者がパソコンや携帯電話から「のりものinfo.com」へ直接登録することで、パソコン・携帯電話・地上波デジタル放送を通じてリアルタイムに利用者へ情報提供。
また、九州管内交通事業者の運行状況が一目でわかる（運行（航）情報のポータルサイト）。